

## 研究主題「小学校音楽科における創造的な思考力を育てる指導の工夫

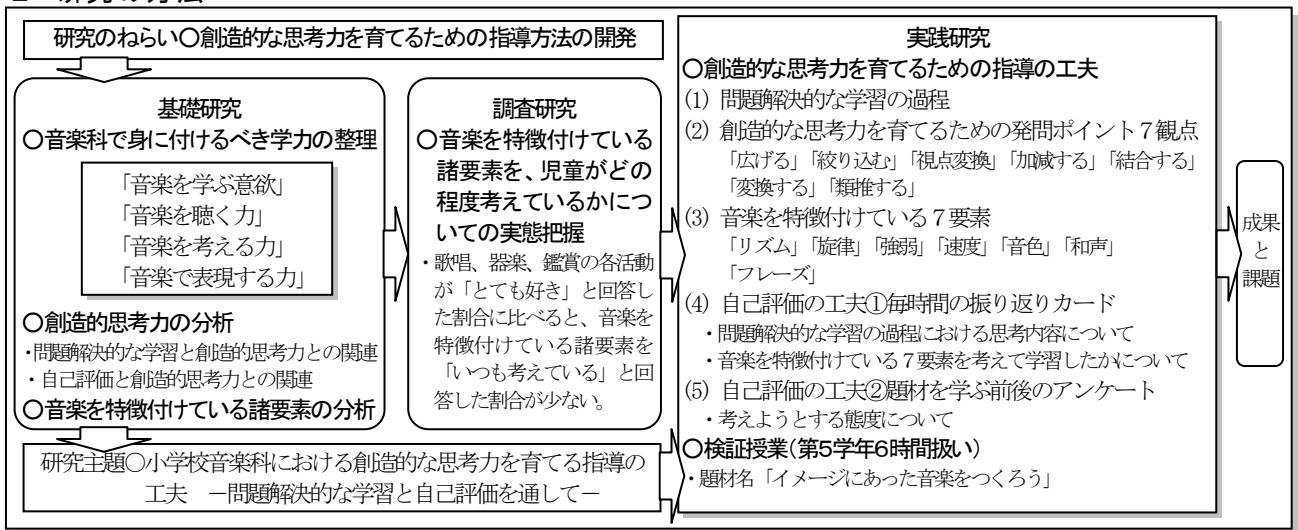
### -問題解決的な学習と自己評価を通して-

東京都教職員研修センター研修部経営研修課  
 台東区立松葉小学校 教諭 玉野 麻衣

#### I 研究の背景とねらい

自ら学び自ら考える力など確かな学力をはぐくむためには、児童一人一人の個性や能力、感性などを伸ばすことが重要である。そこで、確かな学力の基礎・基本である8つの要素から、音楽科で身に付けるべき学力を整理した。そして、児童が音楽を豊かに表現するためには、分析的に思考させることが重要ではないかと考え、創造的な思考力を育てるための指導方法の開発を研究のねらいとした。

#### II 研究の方法



#### III 研究の内容

##### 1 音楽科における学力と創造的な思考力

音楽科で身に付けるべき学力を、「音楽を学ぶ意欲」「音楽を聴く力」「音楽を考える力」「音楽で表現する力」の4つに整理した。それぞれの力が相互に関連しながら高まっていくことが重要である。そして、「音楽を考える力」を、自分の思いやイメージに合うような表現を考え、創意工夫する「創造的な思考力」ととらえることとした。

##### 2 研究仮説

児童の創造的な思考力を育てるためには、自ら課題を設定し解決していく問題解決的な学習を積み重ねさせることの中で、教師が児童の活動を理解し価値付け、さらに働きかけることによって、思考する場面を設定することが重要である。また、児童自身が思考すべき内容や方法を認識していけるような、自己評価の工夫も重要である。そこで、次のような仮説を設定し、研究を進めることとした。

問題解決的な学習による指導と自己評価の工夫を行えば、児童の創造的な思考力を育てることができるであろう。

##### 3 調査分析

都内公立学校5・6年生児童約2,000名を対象に、歌唱・器楽・鑑賞の各活動中に「音楽を特徴付けている諸要素」をどの程度考えているかという実態調査を行った。各活動が「とても

好き」と答えた児童の割合に比べると、「音楽を特徴付けている諸要素」を「いつも考えている」と答えた児童の割合が少なかった。自分の思いやイメージに合うような表現をつくるためには、「音楽を特徴付けている諸要素」を、分析的に思考していくことが大切ではないかと考えた。

#### 4 創造的な思考力を育てる指導の工夫

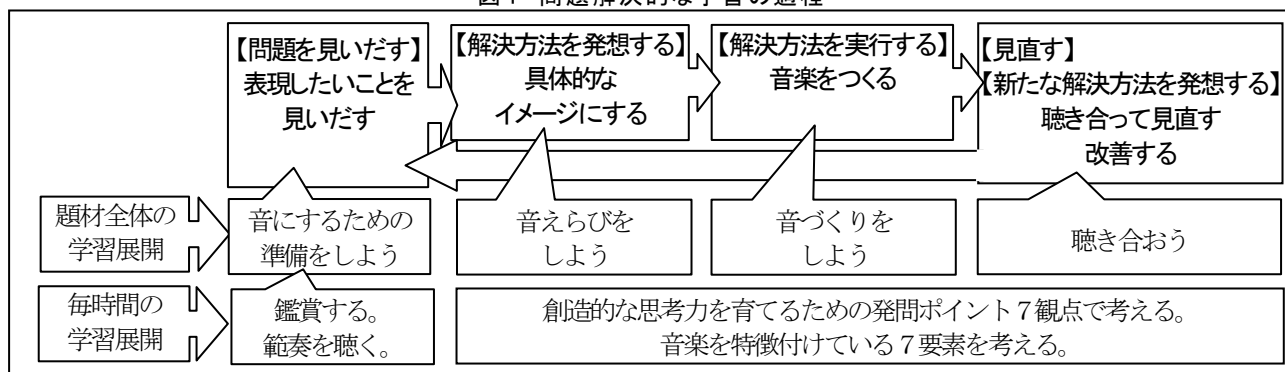
次のような授業を設定し、以下の創造的な思考力を育てる指導の5つの工夫について検証を行った。

対象	台東区立松葉小学校第5学年1組19名（音楽と総合的な学習の時間を関連させて検証授業を実施した。）
題材名	「イメージにあった音楽をつくろう」（6時間扱い）
目標	「やまなし」（宮沢賢治作）を読んで思い描いたイメージを生かしたり、楽曲の特徴を感じ取って音楽を聴いたりする活動を通して、自分のイメージを豊かに表現できるようにする。
活動	(1) 表現したいイメージを生かしながら、選んだ場面の自然や情景、気持ちや心の変化・様子などを具体的なイメージにしていく。 (2) 楽曲を聴いたり、他グループの音楽のよさや表現の工夫を感じ取って、よりよい表現になるように工夫を重ねる。 (3) 音楽を特徴付けている諸要素をよりどころにして、音の重なりや構成を工夫して表現する。

##### (1) 問題解決的な学習の過程

創造的な思考力を育てるためには、常に自ら課題を見だし改善していけるような学習の積み重ねが重要であると考えた。そこで、問題解決的な学習の過程を図1のようにとらえ、題材全体を通してと毎時間の中においても、問題解決的な学習が展開されるような工夫をした。

図1 問題解決的な学習の過程



##### (2) 創造的な思考力を育てるための発問ポイント7観点

基礎研究を基に、創造的な思考力を育てるための発問ポイントを7観点に整理した（表1）。教師がこの7観点を意識し指導を積み重ねていくことで、やがて児童の7観点の育成にもつながっていくと考えた。

表1 創造的な思考力を育てるための7観点

7観点	働きかけのねらい	発問パターン例
1 広げる	「考えるのはこれだけでいいのだろうか」と自分からの見直し、問題点や不足を発見することができるようにする。	これだけですか？さらに何かありませんか？何か忘れていませんか？他のやり方はありませんか？～の場合はどうしますか？
2 絞り込む	問題解決や課題設定の過程でよりよいものを選択できるようにする。	できるだけたくさんのもの中から少しずつ絞り、いちばんよいものを選ぶ。
3 視点変換	問題解決の過程での中心転換、問題解決につながる有効な方法に気付き、既存のものから有効な観点を選擇できるようにする。	もし～だったら、どうしますか？もし～を変えたらどう変わりますか？
4 加減する	操作を工夫し、完成度を高めることができるようにする。	何を加えたらいいですか？～を加えたらどうなりますか？～の時は何を加えますか？～を取り除いたらどうなりますか？～がなかったとしたらどうしますか？
5 結合する	何と何を結びつけたらいいのかを模索することができるようにする。	何と何を関係付けますか？何と何と同時に使いますか？どんなものを使えばいいですか？～の原因はどこにあると思いますか？
6 変換する	どこを変えたらよいかを模索することができるようにする。	～を変えたらどうなりますか？～が変わったらどうなりますか？要素を変えたらどうなりますか？組み合わせを変えたらどうなりますか？
7 類推する	一見して異なるものの中に基本的な共通点を見出すことができるようにする。	～でうまくいったので、～でもうまくいくだろう。～は何に似ていますか？～でうまくいったら、～でもうまくいくだろう。

(3) 音楽を特徴付けている7要素

「音楽を特徴付けている諸要素」を7要素に整理し、7要素ごとの指導内容とねらいを明確にした(表2)。

表2 音楽を特徴付けている7要素

7要素	指導内容とねらい
1 リズム	◇リズムの取り方による表現の違いに気付く。◇リズムの速さによる表現の違いに気付く。◇休符の取り方による表現の違いに気付く。
2 旋律	◇簡単な旋律の作曲で、表現できることに気付く。◇即興的に音を選ぶことで、表現できることに気付く。◇同じ旋律の重なりと、違う旋律の重なりによる表現の違いに気付く。◇旋律の繰り返しによる楽曲全体の長さの調整に気付く。
3 強弱	◇だんだん強くしていく音と、だんだん弱くしていく音による表現の違いに気付く。◇急に強くする音と急に弱くする音による表現の違いに気付く。◇音楽全体の構成の強弱による表現の違いに気付く。◇強弱の差による音の重なり印象の違いに気付く。
4 速度	◇だんだん速くしていく音と、だんだんゆっくりしていく音による表現の違いに気付く。◇急に速くする音と、急にゆっくりする音による表現の違いに気付く。◇同じ速さで動く音の重なりと、違う速さで動く音の重なりによる表現の違いに気付く。
5 音色	◇楽器の種類をかえることによる表現の違いに気付く。◇同じ楽器の奏法をかえることによる表現の違いに気付く。
6 和声	◇旋律が重ならないものと重なるものによる表現の違いに気付く。◇旋律の重ね方による表現の違いに気付く。◇旋律を重ねるタイミングや長さによる表現の違いに気付く。◇同じ音色の重なりと、違う音色の重なりによる表現の違いに気付く。◇単音と和音による表現の違いに気付く。◇音を重ねるタイミングや長さによる表現の違いに気付く。
7 フレーズ	◇旋律のまとまりや、和声のまとまりの取り方による表現の違いに気付く。◇楽曲全体のまとまりや広がりやに気付く。◇楽曲全体の構成に気付く。

問題解決的な学習では、「課題は何か」「何を解決すればよいのか」という課題発見が大切である。そのためには、児童とのやりとりの中で課題意識をもたせ、自ら解決方法を導き出していけるような指導が重要である。そこで、児童が活動中に直面する一つ一つの課題に対して、例えば表3に示すような「音楽を特徴付けている7要素」を「創造的な思考力を育てるための7観点」によって分析し、指導すべき内容を明確にすることで、児童が課題意識をもって活動し、自分の思いやイメージに合うような表現を考え、創意工夫する中で、自ら解決方法を導き出していけるようになるのではないかと考えた。

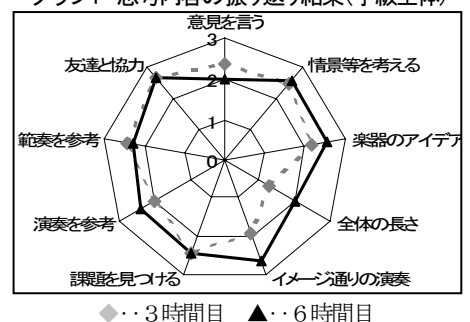
表3 検証授業における1時間分の学習活動の記録(抜粋)

要素	観点	働きかけ	児童の反応
和声 速度	加減する	全部の音にしていたけれど、全部同じ音を重ねることも、違う音を重ねることもできるね。	低い音は川の底だから、今のドで変わらない方がいい。
	視点変換	ここで、水の中を表現している？	そう。上の音が入ってくると絶対下の音も速くなるんだよ。だから下の音が速くなって、真ん中の音が速くなって、高い音はそのままがいい。
リズム 速度 和声	結合する	「もかもか」の4分音符と8分音符が「燃えている」感じのスネアと合っているのは同じだね	ちがう。同じなわけじゃない。
	視点変換	リズムが同じだと動きも同じに聞こえるよね。	じゃあ、スネアを小さくいっぱいたたくとか。
	結合する	トーンチャイムが最後に速くなるのはどうして？「もかもか」が、どうなるから速くなる	虹が集まる時。
	絞り込む	同じところにあるから？	違うよ、あがるよ、虹になるんでしょ。虹はだんだんあがっていくんだよ。虹が集まってくるから、ちょっと速くなっていく。
速度 強弱	広げる	「急に」を、どうやって具体的にする？	時速何十キロみたいなのだから速さじゃないよ。
	視点変換	強さ？強弱？	ああそうかも。それなら強い方。いきなりぱつと。
	変換する	「いきなり」は速さじゃなくてなに？	音の間隔。ずっと静かなところにいきなりドンって映画みたいな。びっくりするような感じか。蟹にとってカワセミのパンっていうのは映画みたいなもの。ホラー映画とか。
	視点変換	じゃあ驚くような音にするんだ。どうすれば驚く音になると思う？	急に大きくするとか。ダダダダって。
	絞り込む	ああ、だんだん大きくする？	だんだんは急になって感じじゃないよ。例えば最初にもっきん叩いてて、途中からシンバル入るとか。だんだんっていうのは違うイメージだと思う。

(4) 自己評価の工夫①毎時間の振り返りカード

前記(1)で示した問題解決的な学習の過程における児童の思考内容について、振り返りカードによる自己評価で児童の意識の変容を調べた結果、検証授業終了後に各質問項目について考えることが「よくできた」と答えた児童の割合が増加した(グラフ1)。また、音楽を特徴付けている7

グラフ1 思考内容の振り返り結果(学級全体)

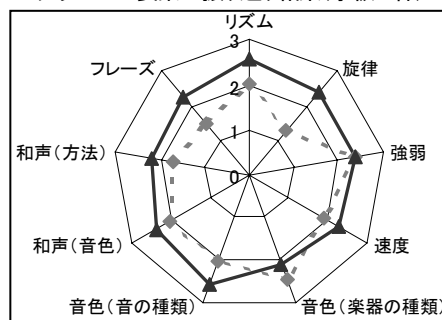


要素を考えて学習したかについて、振り返りカードによる自己評価で児童の意識の変容を調べた結果、検証授業終了後に各質問項目について考えることが「よくできた」と答えた児童の割合が増加した（グラフ2）。

### (5) 自己評価の工夫②題材を学ぶ前後のアンケート

「考えようとする態度」についてのアンケートで児童の意識の変容を調べた結果、肯定的に答えた児童が増加していた（グラフ3）。さらに、効果的な指導の工夫を積み重ね、よりよい変容となって表れるようになることが重要である。

グラフ2 7要素の振り返り結果(学級全体)



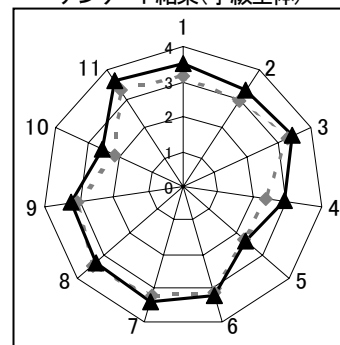
◆…3時間目 ▲…6時間目

表4 「考えようとする態度」についてのアンケート 質問項目（※は逆転項目）

思考を重視する態度を把握するための質問項目	
1	上手に演奏できたかだけでなく、そこまで工夫したことがよかったかどうか大切に思う。
2	上手に演奏できるようになっても、ほかのやり方をさがしてみることがある。
3	上手に演奏できなかつたら、どうすれば上手にできるのか、あとからでも知りたい。
4	どうしてそれがいいのかわからなくても、上手に演奏できればいいと思う。※
5	発表のときは、練習の途中で工夫したことより、上手に演奏できたかどうかかきが気になる。※
6	自分でいろいろ考えて演奏の工夫をするのは、面倒くさいと思う。※
失敗に対して柔軟に対応する態度を把握するための質問項目	
7	思ったようにいかないとき、がんばってなんとかしようとするほうだ。
8	失敗を繰り返しながら、だんだん完全なものにしていけばいいと思う。
9	思ったようにいかないときは、その原因を突き止めようとする。
10	間違いをすると、恥ずかしいような気がする。※
11	うまくいきそうもないと感じると、すぐやる気がなくなってしまう。※

グラフ3

「考えようとする態度」についてのアンケート結果(学級全体)



◆…1時間目 ▲…6時間目

## IV 研究のまとめと今後の課題

「音楽を特徴付けている7要素」を「創造的な思考力を育てるための発問ポイント7観点」によって分析することで、指導すべき内容が明確になり、的確な指導ができるようになった。検証授業後の児童の感想文には、「音楽を特徴付けている7要素」に触れ、自分の思いやイメージに合うような表現を考えながら、学習を進めた様子が多く見られるようになった（表5）。児童の豊かな表現を引き出すためには、児童に分析的に思考させるための指導が必要である。

創造的な思考力とは、音楽科において身に付けるべき大切な力であると同時に、自ら学び自ら考えるなど確かな学力にもつながる重要な力であると考えられる。

今後は、以下の課題に取り組んでいくことが必要であると考えられる。

- (1) 歌唱・器楽・鑑賞の音楽活動でも実践を通じた検証を積み重ねていくこと
- (2) より多くの音楽科の先生方が活用していけるように広めていくこと
- (3) より分析的にきめ細かく見ていくための指導方法として一般化し、他教科や他校種でも活用できるような視点でまとめていくこと

表5 検証授業後の児童の感想(抜粋)

最初の時は簡単だと思っていたけれど、音楽作りはとても難しくよく考えなければできませんでした。でも、みんなとやるうちにどんどんわかってきて、無事に終わったからよかったです。
どんな言葉をどんな感じにするか、というところでたくさん話し合った。最初の楽器がどの表現をするのか考えていなかったのが、先生にきかれたときはほとんどまどってしまった。それから一から作り直して、表現が分かるすてきな音になった。リズムやふしを考えるのは難しかったが、それが一番楽しかった。
虫の音を表現するのは簡単だけど、強さや弱さ、音の大きさを考えると難しかった。でも本番は虫らしく表現できてよかったです。
一番最初楽器が決まって音とかが納得いかない音だったけど、みんなで話し合っ楽器を探したりしてみんなでやったら、納得のいく音になりました。アドバイスをもらって音の強弱とかを少し違う感じにしてみたら前回よりもとてもきれいで不思議な感じになりました。6時間目に発表したら、息も合っていてとても満足しました。